

No. 16 大多喜町アーバンスポーツ推進計画策定支援業務委託に係る公募型プロポーザル

実施について

(令和6年5月受付)

内容	アーバンスポーツに反対である。まず何より計画だけで町税が7百万円使用されること自体疑問を抱く。 大きな施設を作ることは、十分な論議が行われるべきことと思う。町議員に聞いても説明はできず、区の集まりでも友人や若いお母様方も誰一人知らない状態である。 そもそも目的不明で始めるには金額が高すぎる上、誰の為の何の目的を以って推し進めようとしているのか。 消滅自治体だとされた当町は、現役子育て世代や移住者のヒヤリングを行い、町長はそれらを実現することに全勢力をかけ、いかに支出しないでやっていくかが手腕の見せ所であろう。町を消滅させない為に、尽力をして頂きたい。今時、箱物を建てるなど時代錯誤も甚だしい。維持していくコストも消滅するきっかけになりうる。
回答	大多喜町アーバンスポーツ推進計画策定支援業務委託に係る公募型プロポーザル実施についての「町長への手紙」の内容につきまして、次のとおりご回答申し上げます。 貴重なご意見を賜り、誠にありがとうございます。アーバンスポーツ施設建設についての計画と目的をご説明させていただきます。 まず、この施設は町の交流人口を増やし、経済を活性化させるためのものです。スポーツを通じて、地域の魅力を高め、健康で活動的な社会を築くことを目指しています。特に、町の自然と地形を活かしたサイクリススポーツを推進することで、観光振興にも寄与すると考えております。 私たちの目標は、町をサイクリススポーツのメッカとして位置づけ、多

くの人々に訪れていただくことです。これにより、2060年までに8千人の人口を維持するという目標達成に繋がたいと考えています。

現在、町の人口は約8千百人台であり、高齢者が半数近くを占めているため、若い世代の移住を促進することが急務です。

2060年には、現在65歳の方は101歳になります。人口減少は避けられない事実ですが、若い世代の移住を促すことで、人口を8千人に保つことが可能です。そのためには、毎年約130人の若い世代が新たに移住してくる必要があります。

施設の建設には、交付金を活用し、町の財政負担を最小限に抑える計画です。これにより、町の財政に大きな負担をかけることなく、将来的な利益を見込むことができます。

町民の皆様の声に耳を傾け、十分な議論を経て、町の明るい未来のために最善を尽くしてまいります。今後とも、ご理解とご支援をたまわりますようお願い申し上げます。